

神奈川県立藤沢総合高等学校 ビリヤード授業 アンケート（回答）

2026年1月11日

神奈川県ビリヤード協会

2025年12月11日～2025年12月22日にかけて合計4回（55分/回）の授業を実施しました。

本紙は全ての授業が終了した後に、ビリヤードの授業を受講した「生徒12名」と「体育の先生1名」を合わせた13名のアンケートの分析結果です。

— 目次 —

1 ページ	表紙
2～4 ページ	藤沢総合高校 ビリヤード授業アンケート（2025）【質問項目】
5 ページ	0. 総評
6 ページ	1. 授業全体の満足度
7 ページ	2. 授業の説明は分かりやすかったですか？
8 ページ	3. 課題配置の練習は楽しかったですか？
9 ページ	4. フォームを固める練習（素振り特訓・ペットボトル等）は楽しかったですか？
10 ページ	5. 制限時間付きゲーム（ネオナインボール）は楽しめましたか？
11 ページ	6. 授業を通じてビリヤードに興味を持ちましたか？
12 ページ	7. 女子プロによる指導の満足度
13 ページ	8. 今後希望する講師（複数選択）
14～15 ページ	9. その他の要望（自由記述）
16～17 ページ	10. 授業参加の動機（自由記述）
18～20 ページ	11. ビリヤードの印象（自由記述）
21～23 ページ	12. 印象の変化（自由記述）
24～25 ページ	13. 学校にビリヤード部があったら入りたいですか？
26～27 ページ	14. 今後、ビリヤード場に行ってみたいと思いますか？
28～29 ページ	15. 行きやすくなる条件（複数選択）
30～31 ページ	16. 不安・気になる点（複数選択）

藤沢総合高校 ビリヤード授業アンケート（2025）【質問項目】

はじめに

このたびは、4回にわたるビリヤード授業にご参加いただき、ありがとうございました。

本アンケートは、授業内容の振り返りおよび今後の改善、ならびにビリヤード普及活動の参考資料として活用させていただきます。

- 本アンケートは匿名です
 - 学校の成績評価・単位取得には一切関係ありません
 - ご回答内容は、授業改善および関係団体への報告資料として使用します
-

【質問項目】

Q1. 授業全体の満足度を教えてください

(1つ選択) ・非常に満足 ・満足 ・普通 ・やや不満 ・不満

Q2. 授業の説明は分かりやすかったですか？

(1つ選択) ・非常に満足 ・満足 ・普通 ・やや不満 ・不満

Q3. 課題配置の練習は楽しかったですか？

(1つ選択) ・とても楽しかった ・楽しかった ・普通 あまり楽しくなかった ・楽しくなかった

Q4. フォームを固める素振り特訓や、ペットボトルなどのアイテムを使った練習は楽しかったですか？

(1つ選択) ・とても楽しかった ・楽しかった ・普通 ・あまり楽しくなかった ・楽しくなかった

Q5. 制限時間付きゲーム（ネオナインボール）は楽しめましたか？

(1つ選択) ・とても良かった ・良かった ・普通 ・あまり良くなかった ・良くなかった

Q6. 授業を通じて、ビリヤードに興味を持ちましたか？

(1つ選択) ・強く興味がある ・興味がある ・普通 ・あまり興味がない ・興味がない

Q7. 今回の授業で、女子プロによる指導を受けていかがでしたか？

(1つ選択) ・とても良かった ・良かった ・普通 ・あまり良くなかった ・良くなかった ・その他 ()

Q8. 今後の授業で、どのような講師に指導してほしいですか？

(複数選択可) ・男子プロ ・女子プロ ・県内のプロ ・他県のプロ ・アマチュア

Q9. その他、今回の授業について要望や感想があれば教えてください

(自由記述)

Q10. ビリヤードの授業を受けるきっかけとなった動機は何ですか？

(自由記述)

Q11. ビリヤードの印象や、魅力的な点・ネガティブな点を教えてください

(自由記述)

例： ・ショットの技術 ゲーム性・戦略性 ・友人や他人との交流 ・リラックス・ストレス解消 ・かっこいい／知的／エレガント
・高級そう／敷居が高い ・楽しめる場所が分からない など

Q12. 今回の授業で、ビリヤードに対する印象はどのように変わりましたか？

(1つ選択) ・とても良くなった ・良くなった ・変わらない ・あまり良くならなかった ・悪くなった その他 ()

Q13. 学校の部活動として「ビリヤード部」があったら入りたいと思いますか？

(1つ選択) ・絶対に入りたい ・入りたい ・わからない ・あまり入りたくない ・絶対に入りたくない

Q14. 今後、ビリヤード場に行ってみたいと思いますか？

(1つ選択) ・とても行ってみたい ・機会があれば行ってみたい ・どちらとも言えない ・あまり思わない ・その他 ()

Q15. ビリヤード場に行くとしたら、何があると行きやすいですか？

- (複数選択可) ・初心者向けに教えてくれる人がいる ・友達と一緒にいける ・料金が安い／分かりやすい ・学校や家の近くにある
・1人でも入りやすい雰囲気 ・高校生でも利用しやすい ・特に条件はない ・行くつもりはない
-

Q16. ビリヤード場に行くことについて、不安・気になる点があれば教えてください

- (複数選択可) ・初心者が行ってよいか分からない ・料金が高そう ・大人ばかりで入りにくそう ・ルールやマナーが不安
・お店の雰囲気が分からない ・特に不安はない
-

ご協力ありがとうございました

総評

本アンケート結果から、藤沢総合高等学校におけるビリヤード授業は、授業満足度・理解度・楽しさのいずれにおいても非常に高い評価を得ており、教育的効果および普及活動として大きな成果を上げたと評価できる。

授業全体の満足度や説明の分かりやすさについては、すべての回答が「満足」以上であり、不満や否定的な意見は見られなかった。特に、課題配置練習や制限時間付きゲーム（ネオナインボール）など、実技とゲーム性を組み合わせた授業構成は、生徒の集中力や楽しさを高める要因となっていたと考えられる。

また、授業を通じてビリヤードに対する興味を持った生徒は全員に達しており、競技への関心喚起という点においても明確な成果が確認できた。自由記述からは、「敷居が高い」「大人向け」という従来の印象が、「身近で楽しい」「練習すれば上達できるスポーツ」へと変化した様子がかがえ、授業体験が生徒の意識変化につながったことが読み取れる。

女子プロによる指導については、全回答者が「とても良かった」と評価しており、指導者の存在が授業の満足度や理解度の向上に大きく寄与したと考えられる。一方で、今後の授業においては男女を問わずプロによる指導を希望する声が多く、講師の性別よりも専門性や指導力そのものが重視されている傾向が見られた。

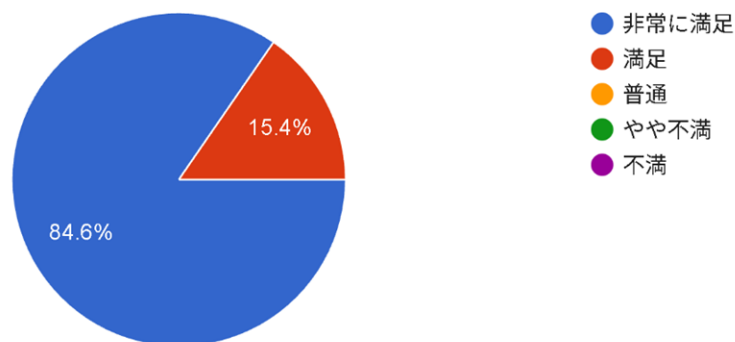
さらに、授業後の行動意識に目を向けると、多くの生徒がビリヤード場に「行ってみたい」「機会があれば行ってみたい」と回答しており、学校内での授業が実社会での行動につながる可能性を示している。その一方で、ルールやマナー、料金、初心者として受け入れられるかといった不安も明確に示されており、情報提供や受け入れ体制の可視化が今後の課題であることが分かった。

以上の結果から、本授業は単なる体験授業にとどまらず、生徒の意識変化、競技理解、さらには地域のビリヤード場への関心喚起にまで効果を及ぼしており、学校教育と連携したビリヤード普及事業として高い有効性を持つ取り組みであったと総括できる。

今後は、本アンケート結果を踏まえ、授業内容のさらなる改善とともに、学校外での継続的な体験機会や導線づくりを検討していくことが必要となる。

1. 授業全体の満足度 授業全体の満足度を教えてください。

13件の回答



高い満足度

- 回答者の大多数（84.6%）が「非常に満足」と回答しており、授業全体に対する評価は非常に高い水準である。
- 「満足」も 15.4% あり、「満足」以上の回答は 100% となっている。

不満の声なし

- 「普通」「やや不満」「不満」といった評価は一切見られず、授業内容や進行に対して大きな不満や否定的な意見はほとんどなかったと考えられる。

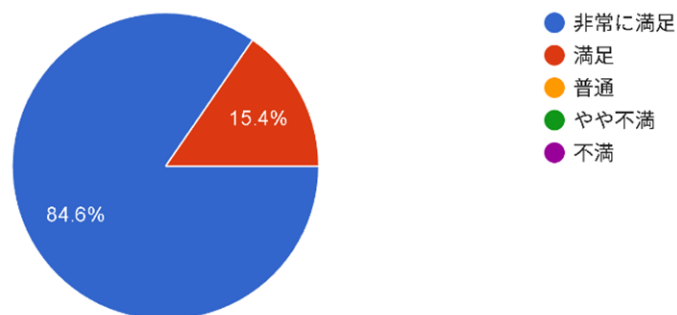
考えられる要因

- 初心者にも理解しやすい説明や段階的な進行により、安心して取り組める授業構成であった可能性。
- 講師（女子プロを含む）やサポートスタッフの関わり方が、生徒にとって親しみやすく、前向きな体験につながったと考えられる。
- 課題練習やゲーム形式を取り入れたことで、ビリヤードの楽しさや達成感が実感しやすかった。

昨年度と同様に、満足度は非常に高い結果となっており、本授業の基本的な進め方や方向性が継続して有効であることが示唆される。

2. 授業の説明は分かりやすかったですか？

13件の回答



高い理解度・評価

- 回答者の大多数（84.6%）が「非常に満足」と回答しており、授業の説明について非常に分かりやすかったと評価されている。
- 「満足」も 15.4% あり、「満足」以上の回答は 100% となっている。

不満の声なし

- 「普通」「やや不満」「不満」の回答はゼロであり、説明が難しかった、理解できなかったと感じた生徒は見られなかった。

考えられる要因

- 初心者前提とした説明内容や言葉選びが適切で、専門用語を抑えた説明が行われていた可能性。
- 実演や練習と説明を組み合わせることで、体験を通じた理解につながったと考えられる。
- 講師・サポートスタッフ間で役割分担がなされ、個別フォローが行き届いていたことも要因の一つと考えられる。

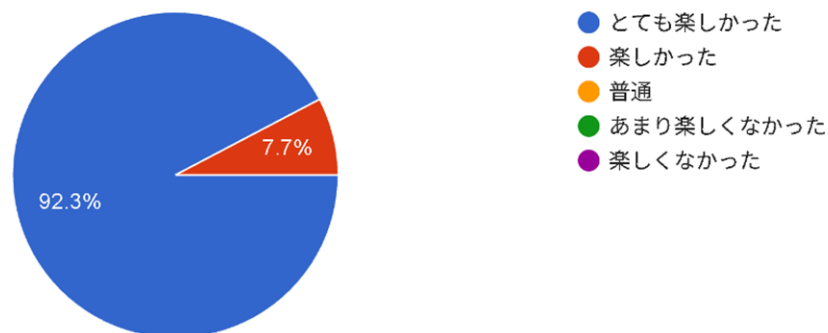
【昨年との比較考察】

- 昨年度も「非常に満足」「満足」が大多数を占め、説明の分かりやすさについて高い評価を得ていたが、今年度も同様に満足度 100%を維持している。
- 特に「非常に満足」の割合が8割以上となっている点から、授業構成や説明方法が継続的に有効であることが示唆される。
- 昨年度の振り返りを踏まえ、説明の順序や内容を整理したことが、生徒の理解度向上につながった可能性がある。

授業全体の満足度に加え、説明の分かりやすさについても昨年度と同水準の高評価が得られており、本授業の進め方や指導方法が安定して成果を上げていることが確認できる。

3. 課題配置の練習は楽しかったですか？

13 件の回答



非常に高い評価

- 回答者の大多数 (92.3%) が「とても楽しかった」と回答しており、課題配置の練習が生徒にとって非常に魅力的な内容であったことがうかがえる。
- 「楽しかった」も 7.7% あり、「楽しかった」以上の回答は 100% となっている。

否定的評価なし

- 「普通」「あまり楽しなかった」「楽しなかった」といった回答は一切見られず、課題配置の練習が生徒にとって退屈、あるいは難しすぎると感じられることはほとんどなかったと考えられる。

考えられる要因

- 単純な反復練習ではなく、狙い方や成功体験を意識できる配置を用いたことで、挑戦意欲が高まった可能性。
- 成功・失敗が分かりやすく、短時間でも達成感を得られるため、初心者でも楽しさを実感しやすかったと考えられる。
- 講師やサポートスタッフが適宜声掛けを行い、成功体験を肯定的にフィードバックしていたことも一因と考えられる。

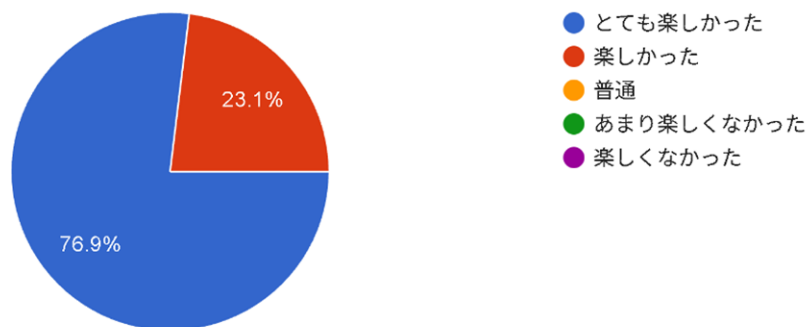
【昨年との比較考察 (Q3)】

- 昨年度も課題配置の練習については概ね好評であったが、今年度は特に「とても楽しかった」の割合が9割を超えている点が特徴的である。
- 課題の難易度設定や配置内容を調整したことにより、初心者にとって「難しすぎず、簡単すぎない」バランスが取れ、楽しさがより強く実感された可能性がある。
- 昨年度の振り返りを踏まえた改善が、生徒の体験価値向上につながったと考えられる。

課題配置の練習については、昨年度以上に高い評価が得られており実技中心の授業構成が生徒の満足度と楽しさの向上に大きく寄与していることが示唆される。

4. フォームを固める素振り特訓やペットボトル...のアイテムを取り入れた練習は楽しかったですか？

13件の回答



高い評価

- 回答者の大多数（76.9%）が「とても楽しかった」と回答しており、フォーム習得を目的とした基礎練習でありながら、高い楽しさが感じられていたことが分かる。
- 「楽しかった」も 23.1% あり、「楽しかった」以上の回答は 100% となっている。

否定的評価なし

- 「普通」「あまり楽しなかった」「楽しなかった」といった回答は見られず、基礎的な練習内容に対しても拒否感や退屈さを感じた生徒はほとんどいなかったと考えられる。

考えられる要因

- ペットボトルなどのアイテムを用いることで、フォームやストロークの意識点が視覚的に分かりやすくなった可能性。
- 単調になりやすい素振り練習を、遊び要素や工夫を交えた内容にしたことで、集中力と興味を維持できたと考えられる。
- 課題配置練習やゲーム形式と組み合わせることで、基礎練習の意味や目的が理解しやすかったことも一因と考えられる。

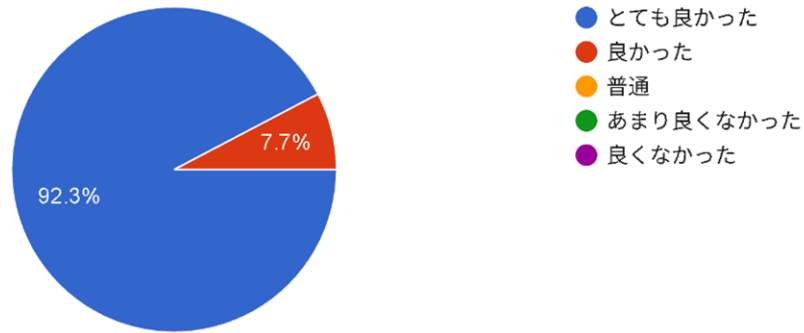
【昨年との比較考察（Q4）】

- 昨年度も基礎練習に対して一定の評価は得られていたが、今年度は「とても楽しかった」「楽しかった」が 100% となり、基礎練習に対する心理的ハードルがさらに下がったと考えられる。
- 特に「とても楽しかった」が約 8 割 を占めている点から、アイテムを活用した指導方法が、生徒にとって印象に残る体験となった可能性が高い。
- 昨年度の振り返りを踏まえ、説明方法や練習内容を工夫したことが、基礎練習の受け止められ方の改善につながったと考えられる。

基礎的なフォーム練習についても高い評価が得られており、楽しさと技術習得を両立した授業構成が生徒の前向きな参加意欲を支えていることが示唆される。

5. 制限時間付きゲーム（ネオナインボール）は楽しめましたか？

13 件の回答



非常に高い評価

- 回答者の大多数（92.3%）が「とても良かった」と回答しており、制限時間付きゲームが生徒にとって非常に楽しめる内容であったことがうかがえる。
- 「良かった」も 7.7% あり、「良かった」以上の回答は 100% となっている。

否定的評価なし

- 「普通」「あまり良くなかった」「良くなかった」といった回答は見られず、ゲーム形式の授業に対して否定的な評価は存在しなかった。

考えられる要因

- 制限時間を設けることで、プレーのテンポが良くなり、待ち時間が少なく、全員が積極的に参加できた可能性。
- 勝敗だけでなく、チャレンジや成功体験を重視したルール設定により、初心者でも楽しみやすいゲーム性となっていたと考えられる。
- 基礎練習や課題配置で身につけた内容を、実戦形式で試す場として機能していた点も、高評価につながった要因の一つと考えられる。

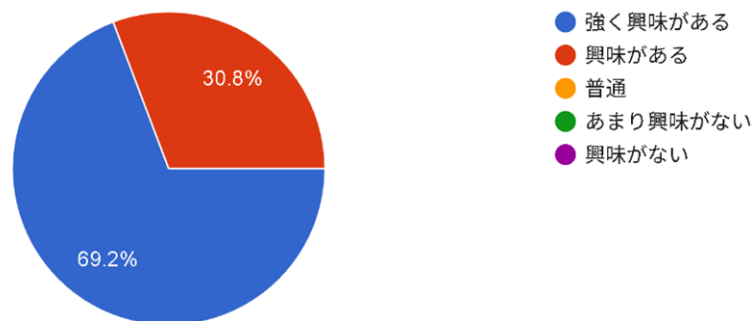
【昨年との比較考察（Q5）】

- 昨年度もゲーム形式の授業は好評であったが、今年度は「とても良かった」が9割を超える結果となっており、ゲーム性に対する評価がさらに高まっている。
- 授業全体の流れの中で、基礎練習からゲームへと自然につなげたことで、ゲームの理解度や楽しさが一層深まった可能性がある。
- 昨年度の反省を踏まえ、ルール説明や進行方法を整理したことが、生徒の没入感向上につながったと考えられる。

制限時間付きゲームは、授業の集大成として非常に高い評価を得ており、基礎から応用、そして実戦へと段階的に構成された授業設計が、生徒の満足度向上に大きく寄与していることが示唆される。

6. 授業を通じてビリヤードに興味を持ちましたか？

13件の回答



高い興味喚起効果

- 回答者の 69.2% が「強く興味がある」、30.8% が「興味がある」と回答しており、全員が何らかの興味を持った結果となっている。
- 「普通」「あまり興味がない」「興味がない」といった回答は見られなかった。

否定的評価なし

- 興味を持てなかった、あるいは関心が低下したとする回答はゼロであり、授業がビリヤードへの関心を高める方向に作用したことがうかがえる。

考えられる要因

- 課題配置練習やゲーム形式を通じて、成功体験や達成感を得やすかったことが、興味の喚起につながった可能性。
- 単なる技術指導にとどまらず、楽しさや競技性を体験できたことで、ビリヤードの魅力が具体的にイメージできたと考えられる。
- 講師やスタッフとのコミュニケーションを通じ、競技や文化としてのビリヤードに親しみを持てたことも一因と考えられる。

【昨年との比較考察 (Q6)】

- 昨年度も授業を通じてビリヤードへの関心が高まったとの結果が得られていたが、今年度は特に「強く興味がある」の割合が約 7 割を占めている点特徴的である。
- 楽しさや満足度にとどまらず、「興味」という次の段階へ生徒の意識が進んでいることから、授業内容が体験型から動機形成へとつながっていると考えられる。
- 昨年度の振り返りを踏まえ、基礎練習からゲームまでを一貫した流れで構成したことが、興味の定着に寄与した可能性がある。

授業全体の満足度や楽しさに加え、ビリヤードへの興味喚起という点でも高い成果が得られており本授業が普及事業として有効に機能していることが示唆される。

7. 今回の授業で女子プロによる指導を受けていかがでしたか？

13件の回答



極めて高い評価

- 回答者 全員（100%）が「とても良かった」と回答しており、女子プロによる指導が生徒にとって非常に好意的に受け止められていたことが分かる。
- 「良かった」「普通」以下の回答は一切見られず、評価のばらつきがない点が特徴的である。

否定的・中立的評価なし

- 指導方法や講師に対する不満、違和感を示す回答は存在しなかった。
- 生徒全体にとって、女子プロによる指導が安心感や親しみやすさを伴う体験となっていた可能性が高い。

考えられる要因

- 初心者を目線に立った説明や声掛けにより、質問や相談がしやすい雰囲気が形成されていた可能性。
- 年齢や性別の近さから、ピリヤードを身近で現実的なものとして捉えやすかったと考えられる。
- 技術面だけでなく、態度や立ち居振る舞いを含めた指導が、生徒にとって良いロールモデルとして機能していたことも一因と考えられる。

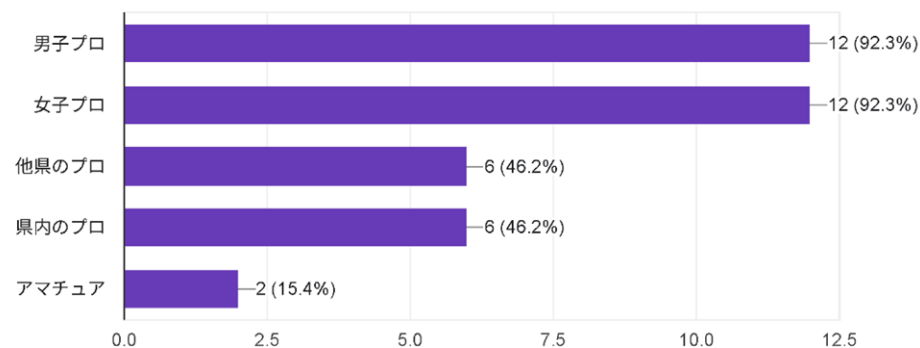
【昨年との比較考察（Q7）】

- 昨年度も女子プロによる指導は高い評価を得ていたが、今年度は全員が最高評価という結果となっており、指導効果がより明確に示された。
- 授業全体の構成や進行が安定したことで、講師の良さがより発揮され、生徒の満足度向上につながった可能性がある。
- 昨年度の実施経験を踏まえ、講師とスタッフの連携が円滑になったことも、評価向上の一因と考えられる。

女子プロによる指導は、生徒の満足度および興味喚起の両面で極めて高い効果を示しており、今後の学校連携型普及事業においても、有効な講師選定の一つの方向性を示す結果となった。

8. 今後の授業で、どのような講師に指導して欲しいですか？（複数選択OK）

13件の回答



講師への高い期待

- 男女を問わず、「プロによる指導」に対する期待が非常に高く、男子プロ・女子プロともに9割超の生徒が希望している。
- 性別による偏りは見られず、「プロであること」自体が重要な要素として認識されていることがうかがえる。

地域性に対する意識

- 「県内のプロ」「他県のプロ」はともに46.2%と同数であり、地域に強いこだわりは見られない。
- 生徒にとっては、身近かどうかよりも、指導内容や体験の質が重視されている可能性が高い。

アマチュア指導への評価

- 「アマチュア」を選択した生徒は15.4%にとどまっており授業という場においては一定の専門性や象徴性を持つ講師が求められていると考えられる。

【昨年との比較考察（Q8）】

- 昨年度もプロによる指導への期待は高かったが今年度は男女プロともに9割を超える支持が示されており講師に対する評価がより明確になっている。
- 特に、Q7で女子プロによる指導が100%「とても良かった」と評価されている点と合わせて考えると、実体験を通じて「プロに教わる価値」を実感した生徒が多かったと推察される。
- 昨年度に比べ、講師の役割や位置づけが、生徒の中でより具体的にイメージできるようになった可能性がある。

今後の運営方針への示唆

- 学校連携型の授業においては、プロを中心とした講師構成が、生徒の満足度・興味喚起の両面で有効であることが示された。
- 男女の別なくプロを起用し、必要に応じて県内外の講師を組み合わせるなど、柔軟な講師編成が望ましいと考えられる。
- アマチュア講師については、補助的・サポート的な役割として位置づけることで、全体の質を維持しやすい可能性がある。

生徒は講師の性別や地域よりも「プロによる指導」を重視しており、実体験を通じてその価値を理解していることが、本結果から明らかとなった。

9. その他、今回の授業について何か要望があれば

- ・個人戦をやってみたかった
- ・実施回数が限られた中ですが、全体（終了したとき）の目標が明確だと、受講後に達成感がわきやすいと感じます。例）テニスならば10回の授業終了時には「相手とラリーが20回続く」「ゲームの進め方が理解できている」等。ゲームの楽しさ理解との共存バランスが難しいかもしれませんが「達成レベルの用紙（デジタルでも可）」などがあるとわかりやすいです。例えば、Lv1まっすぐ撞ける/Lv2狙った的に直線上で3回連続当てることのできる等。自主練する生徒もいたので、用紙があれば学校側でも少し練習可能になります。
- ・多忙な中、今年度もお時間割いていただき感謝しております。12/24の雨の際も2・3年生の体育授業でビリヤード希望者はビリヤードを行いました。不定期での実施が現状ですが、今後もよろしく願いいたします。
- ・もっとやってほしい
- ・マンツーマンで教えて欲しい
- ・たくさんボールにさわって楽しかった
- ・もう少し長い時間やりたかった（2名）
- ・とても楽しかったです（2名）
- ・特にないです（6名）

生徒・教員からの自由記述は、以下のように大きく分類できる。

① 授業内容・形式に関する要望

- ・個人戦をやってみたかった
- ・マンツーマンで教えてほしい
- ・もっとやってほしい
- ・もう少し長い時間やりたかった（2名）

② 目標設定・達成感に関する意見

- ・授業回数が限られている中でも、「最終的に何ができるようになるか」という明確なゴールがあると達成感が得やすい
- ・レベル表（例：Lv1～Lv2など）や達成チェック表があると、自主練や学校側での継続練習にも活用しやすい

③ 授業に対する肯定的な感想・感謝

- ・たくさんボールに触れて楽しかった
- ・とても楽しかった（2名）
- ・多忙な中でも継続して授業を実施してくれたことへの感謝
- ・特に要望はない（6名）

考察

- 自由記述の多くは「不満」ではなく、前向きな要望や発展的な提案で占められている。
- 「もっとやりたい」「時間を延ばしてほしい」「個人戦をやってみたい」といった意見は、授業への満足度が高いからこそ生まれるポジティブな要求と捉えられる。
- 特に、目標設定や達成レベルに関する意見は、生徒が単なる体験にとどまらず、上達や成長を意識して授業を受けていたことを示している。

【昨年との比較考察 (Q9)】

- 昨年度は「楽しかった」「またやりたい」といった感想が中心であったのに対し、今年度は一歩進んで、「どうすれば達成感が高まるか」「継続につながられるか」という視点の意見が見られる点が特徴的である。
- これは、授業内容や進行が安定し、生徒が安心して参加できたことで、体験の質が向上し、次の段階を意識できる余地が生まれた結果と考えられる。

今後の授業改善・運営への示唆

- 今後は、
 - 授業終了時の到達目標を簡潔に示す
 - レベル表やチェックシート（紙・デジタル）の導入
といった工夫により、達成感の可視化を図ることが有効と考えられる。
- また、個人戦やマンツーマン指導については、時間や人員の制約を踏まえつつ、一部の時間帯での導入や体験的要素として検討することで、授業満足度をさらに高められる可能性がある。

自由記述からは、授業に対する高い満足度とともに、さらなる上達や継続を意識した前向きな要望が多く見られ、本授業が生徒の主体的な関心を引き出す段階に到達していることがうかがえる。

10. ビリヤードの授業を受けるきっかけとなった動機は何ですか？

- ・楽しそうだった（2名）
- ・もともとビリヤードはやってみたいと思っていたし、藤総にビリヤード台があるから
- ・選択体育
- ・スポーツ総合演習の授業のひとつの授業（2名）
- ・スポーツが好きだから
- ・授業だから
- ・スポーツ総合演習を取っていたから。
- ・卓球台の横にビリヤード台があった
- ・スポーツ総合演習で先生がビリヤードの授業を取ってくれた
- ・学校の授業
- ・先生の授業

自由記述の内容は、主に以下の4つの動機に分類できる。

① 授業・制度による参加（受動的動機）

- ・ 選択体育
- ・ スポーツ総合演習の授業の一つ
- ・ 授業だから
- ・ 学校の授業
- ・ 先生の授業
- ・ スポーツ総合演習を取っていたから
- ・ 先生がビリヤードの授業を取ってくれた

⇒学校カリキュラムに組み込まれていたことが、最も大きな参加要因となっている。

② 興味・関心による参加（能動的動機）

- ・ 楽しそうだった（複数名）
- ・ もともとビリヤードをやってみたいと思っていた
- ・ スポーツが好きだから

⇒一部の生徒は、授業以前からポジティブな興味を持って参加している。

③ 環境・きっかけによる参加

- ・ 藤沢総合高校にビリヤード台があるから
- ・ 卓球台の横にビリヤード台があった

⇒校内環境に実物があったことが、参加の心理的ハードルを下げる要因となっている。

考察

- ・ 回答の多くは「授業だから」「選択体育だから」といった制度的・受動的な動機であるが、これは本授業が「やりたい人だけが集まる活動」ではなく、普段ビリヤードに触れる機会のない生徒にも届いていることを示している。
- ・ 一方で、「楽しそう」「やってみたかった」といった能動的動機も一定数見られ、授業実施前からすでに潜在的な関心層が存在していたことがうかがえる。
- ・ 校内にビリヤード台が設置されていたことは、「未知の競技」から「身近な存在」へと認識を変える重要な要素であったと考えられる。

【昨年との比較考察（Q10）】

- ・ 昨年度も「授業の一環として参加した」という回答が中心であったが、今年度はそれに加えて、
 - 設備（ビリヤード台）の存在
 - 以前からの興味といった複数の動機が重なっている点が特徴的である。
- ・ 授業実施が継続されることで、校内におけるビリヤードの認知が進み、「偶然の出会い」から参加につながるケースが増えている可能性がある。

今後の普及活動・学校連携への示唆

- ・ 学校授業という枠組みは、ビリヤードに触れたことのない生徒に体験機会を提供するうえで、非常に有効な導線であることが改めて確認された。
- ・ 今後は、
 - 授業前に簡単な紹介や見どころを示す
 - 校内掲示や設備の見える化を行うといった工夫により、受動的参加を能動的関心へと転換する余地があると考えられる。

本授業は、制度的な参加をきっかけとしながらも、環境整備や体験内容を通じて、生徒の関心を引き出す有効な普及機会となっていることが示唆される。

11. ビリヤードの印象や魅力的な部分やネガティブな部分を教えてください。

例) ショットの技術 ゲーム戦略 友人や他の人々との交流 リラックス・ストレス解消 カッコ良い 知的 エレガント 高級 庶民的
専門的で敷居が高い 楽しめる 場所がわからない 難しい etc

- ・集中力が大切なところ マイナーな競技
- ・打ったボールが狙いのボールに当たって穴に入った時が気持ちいい。お金がかかりそう
- ・映画やドラマでネガティブ場面での登場が多いのが残念です。
- ・繊細だけど爽快感がすごい
- ・カッコいい (2名)
- ・大人なイメージ
- ・意外とショットを打つ時の体制がきつい
- ・真っ直ぐ打てないと悔しい
- ・とても友達と盛り上がれて良かった
- ・コンビで決めた時
- ・上手いショットをした時がとても楽しい 難易度が高い
- ・コツを掴めたとしても中々入らなくて
- ・入った時がとてもストレス発散になる

自由記述の内容は、以下の4つの観点に整理できる。

① 魅力・ポジティブな印象

技術・達成感

- ・ 狙い通りに当たってポケットに入った時が気持ちいい
- ・ 上手いショットが決まった時がとても楽しい
- ・ コンビネーションショットが決まった時
- ・ 繊細だが爽快感がある
- ・ 真っ直ぐ打てないと悔しい (=上達意欲)

心理面・感情面

- 集中力が必要で没頭できる
- 入った時にストレス発散になる
- リラックスできる
- 意外と盛り上がる

対人・コミュニケーション

- 友達と一緒に盛り上がれて良かった
- コンビで決めた時の楽しさ

イメージ

- かっこいい（複数名）
- 大人なイメージ
- 知的・エレガントさを感じる

② ネガティブ・課題として挙げられた点

難易度・身体的側面

- 難易度が高い
- コツを掴んでもなかなか入らない
- ショット時の姿勢が意外ときつい

イメージ・環境面

- マイナーな競技
- お金がかかりそう
- 楽しめる場所が分かりにくい
- 映画やドラマでネガティブな場面に登場することが多い点が残念

考察

- ポジティブな意見の多くは、「成功体験」と「集中・没入感」に関するものであり、ビリヤード特有の魅力が生徒にしっかり伝わっている。
- 一方で、「難しい」「なかなか入らない」といった意見も見られるが、これらは否定的というよりも、挑戦性や奥深さとして受け止められている印象が強い。
- ネガティブなイメージとして挙げられている点は、競技そのものよりも、社会的イメージや情報不足に起因するものが多いと考えられる。

【昨年との比較考察 (Q11)】

- 昨年度は「難しい」「カッコいい」「楽しい」といった感想が中心であったのに対し、今年度はそれに加えて、
 - メディアでの扱われ方
 - 競技の立ち位置 (マイナー性)
 - 環境面 (費用・場所)といった一段踏み込んだ視点の意見が見られる点が特徴的である。
- これは、生徒が単なる体験にとどまらず、競技文化や社会的背景まで含めてビリヤードを捉え始めていることを示していると考えられる。

今後の普及活動・授業改善への示唆

- 授業や今後の資料の中で、
 - 初心者でも楽しめる環境
 - 費用面のハードルが必ずしも高くないこと
 - 学生でも利用しやすいビリヤード場の存在といった情報を補足することで、ネガティブイメージの緩和が期待できる。
- また、「難しいが楽しい」「入った時が気持ちいい」という声を活かし、成功体験を積みやすい構成を継続することが、興味の定着につながると考えられる。

自由記述からは、ビリヤードの難しさと同時に、成功時の達成感や集中できる楽しさが強く印象に残っていることが読み取れ、授業を通じて競技の本質的な魅力が生徒に伝わっていることがうかがえる。

12. 今回の授業でビリヤードに対する印象はどのように変わりましたか？

- ・ すごく楽しい競技
- ・ 練習すれば上手くなる。ビリヤードをやる場所はたくさんあるのだなとわかった
- ・ ビリヤードに対する敷居が低くなったと感じる。 ショットのレベルが向上したと感じる。
- ・ 出来るようになったら自分でもかっこよくショットができるようになる。
- ・ 体を動かさないからあまり、楽しくないと思っていたけど、自分のスキルがわかりやすく出てすごく楽しい
- ・ つまらない→面白い
- ・ ただ球を打つだけの、お金持ちの人がやりそうな印象だったが、プロがいるほどしっかりしたスポーツだとわかった
- ・ 知らない競技から身近な競技になった。
- ・ とても楽しいが繊細で難しいスポーツだと思った
- ・ とてもかっこよくて楽しいスポーツだと知った
- ・ フォームや打ち方が分かるとやりやすい
- ・ とても楽しくて極めるのが楽しい競技
- ・ 変わりました

自由記述から、印象の変化は主に以下の方向に整理できる。

① ネガティブ・無関心からポジティブへの転換

- ・ つまらない → 面白い
- ・ 体を動かさないから楽しくないと思っていたが、すごく楽しい
- ・ ただ球を打つだけの、お金持ちの人がやりそうな競技という印象から、プロがいるほどしっかりしたスポーツだと分かった
- ・ マイナー・知らない競技 → 身近な競技になった

⇒ 先入観が大きく変化している点が明確に読み取れる。

② 楽しさ・魅力の再認識

- ・ すごく楽しい競技
- ・ とても楽しくて、極めるのが楽しい
- ・ とてもかっこよくて楽しいスポーツ
- ・ 出来るようになると、かっこよくショットができる

⇒ 単なる体験ではなく、継続や上達を前提とした楽しさが意識されている。

③ 技術理解・成長実感

- 練習すれば上手くなると分かった
- フォームや打ち方が分かるとやりやすい
- ショットのレベルが向上したと感じる
- 自分のスキルが分かりやすく出る競技だと感じた

⇒ 授業を通じて、技術構造を理解できたことが印象変化につながっている。

④ 心理的ハードルの低下

- ビリヤードに対する敷居が低くなった
- やる場所がたくさんあると分かった

⇒ 普及の観点で非常に重要な「心理的障壁の解消」が確認できる。

考察

- 回答全体から、ビリヤードに対する印象が「知らない・敷居が高い」→「身近で楽しい・上達できる競技」へと大きく転換していることが明確に読み取れる。
- 特に、
 - 技術構造の理解
 - 成功体験
 - プロによる指導が組み合わさることで、単なる体験型授業にとどまらず、競技としての本質的な魅力が伝わったと考えられる。

【昨年との比較考察 (Q12)】

- 昨年度も「楽しい」「印象が良くなった」という声は見られたが、今年度はさらに踏み込んで、
 - 先入観の否定
 - 競技としての理解
 - 心理的ハードルの低下といった質的な印象変化が多く見られる点が特徴である。
- これは、授業構成や説明、練習内容が洗練され、生徒が「なぜ楽しいのか」「どうすれば上達するのか」を具体的に理解できる段階まで到達した結果と考えられる。

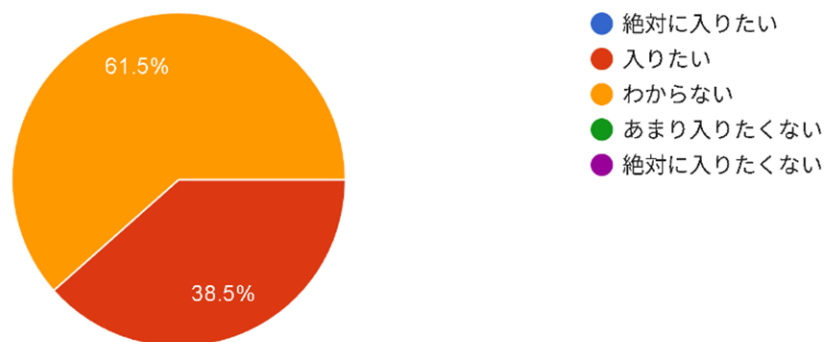
今後の普及活動・授業改善への示唆

- 今回得られた「敷居が低くなった」「身近に感じた」という印象変化は、学校連携型普及事業の大きな成果指標として位置づけられる。
- 今後は、
 - 授業前後での印象変化を可視化する
 - 初回授業で「誤解されがちなイメージ」を意識的に払拭するといった工夫により、印象転換の効果をさらに高められる可能性がある。

授業を通じて、生徒のビリヤードに対する印象は大きく変化しており、先入観の解消と競技理解の深化という点で、本授業が普及事業として高い効果を発揮していることが示唆される。

13. 学校の部活でビリヤード部があったら入りたいと思いますか？

13件の回答



回答結果の概要

- 入りたい：38.5% (5名)
- わからない：61.5% (8名)
- 絶対に入りたい／あまり入りたくない／絶対に入りたくない：0%

前向き意向が一定数存在

- 約4割の生徒が「入りたい」と回答しており、授業を通じてビリヤードが部活動の選択肢として現実的に認識されていることが分かる。
- 否定的な回答（「入りたくない」系）が一切存在しない点は特筆すべき結果である。

「わからない」が多数を占める背景

- 「わからない」が6割超を占めているが、これは拒否ではなく、
 - 活動内容の具体像がまだ見えない
 - 他の部活動との比較ができていない
 - 継続的な活動イメージが持てていないといった情報不足・判断材料不足によるものと考えられる。
- Q12において印象が大きく改善している点を踏まえると、関心自体は高い状態にあると推察される。

【昨年との比較考察 (Q13)】

- 昨年度は部活動としての参加意向について、「興味はあるが判断が難しい」といった声を中心であったのに対し、今年度は「入りたい」と明確に回答する生徒が一定数(約4割) 見られる点特徴的である。
- 授業を通じて、
 - ビリヤードが競技として成立していること
 - 上達や継続が可能なスポーツであることが理解されたことで、部活動という形での参加を具体的に想像できる段階に進んだと考えられる。

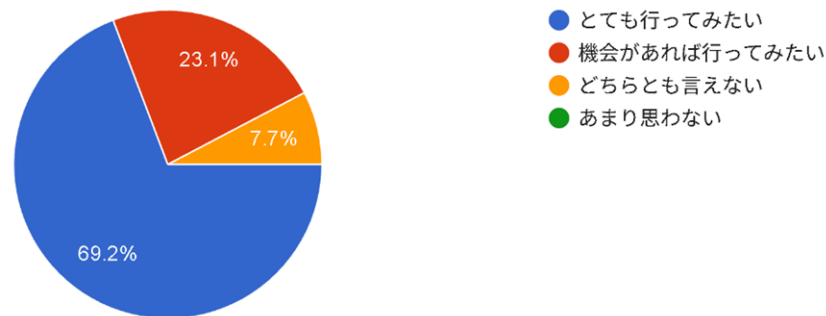
今後の普及・学校連携への示唆

- 部活動化を検討する場合には、
 - 活動頻度
 - 初心者でも参加しやすい雰囲気
 - 費用や設備面といった点を具体的に示すことで、「わからない」と回答した層が「入りたい」へと移行する可能性がある。
- まずは正式な部活動に限らず、
 - 同好会
 - 体験的な課外活動といった形から段階的に導入することも、有効な選択肢と考えられる。

部活動としての参加意向については、現時点での即時入部希望は限定的であるが、否定的意見が見られない点は注目される。一定数の生徒が前向きな関心を示していることから、今後の学校連携や継続的な普及活動につながる可能性が示唆される。

14.今後、ビリヤード場に行ってみたいと思いますか？

13件の回答



非常に高い行動意欲

- 「とても行ってみたい」「機会があれば行ってみたい」を合わせると 92.3% に達しており、授業体験が実際の行動（来店）につながる可能性が極めて高いことが示されている。
- 否定的な回答が一切見られない点は、普及活動として非常に評価できる結果である。

「どちらとも言えない」の位置づけ

- 「どちらとも言えない」は 1名（7.7%）のみであり、明確な拒否ではなく、
 - 行く機会やきっかけ
 - 同伴者や環境があれば前向きに転じる余地がある層と考えられる。

【昨年との比較考察（Q14）】

- 昨年度も来店意向は比較的高かったが、今年度は「とても行ってみたい」が約 7割 を占めており、行動への距離がさらに縮まっている点特徴的である。
- Q12（印象の変化）で示された
 - 敷居が低くなった
 - 身近に感じたという意識変化が、実際の行動意欲へと明確につながっている結果といえる。

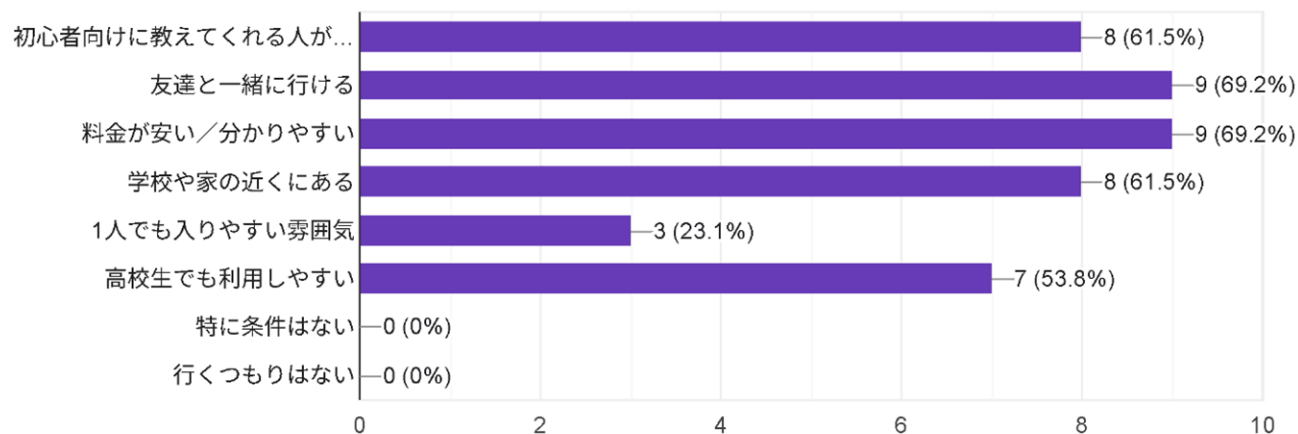
今後の普及・導線設計への示唆

- この結果は、
「学校授業 → 競技理解 → 興味喚起 → 行動意欲」という普及導線が機能していることを示している。
- 今後は、
 - 高校生でも利用しやすい店舗の紹介
 - 初心者向けサービスや料金体系の案内
 - 友人同士で来店しやすい仕組みを示すことで、「行ってみたい」を実際の来店につなげる施策が有効と考えられる。

授業体験を通じて、ビリヤード場への来店意欲が非常に高まっており、本授業が学校内にとどまらず、地域のビリヤード場への導線形成にも寄与する可能性が示唆される。

15. ビリヤード場に行くとしたら、何があると行きやすいですか？（複数選択OK）

13件の回答



行きやすさの中心要素

- 回答から、行きやすさの条件は「友人と行ける」「料金が明確」「初心者対応がある」という3点に強く集約されている。
- 特に「友達と一緒にいける」「料金が安い/分かりやすい」がともに約7割と高く、初回利用時の心理的・経済的ハードルが大きな判断材料となっていることが分かる。

高校生特有の視点

- 「高校生でも利用しやすい」が53.8%と半数を超えており、年齢・時間帯・雰囲気といった点への配慮が重要であることが示されている。
- 一方で、「1人でも入りやすい雰囲気」は23.1%にとどまっており、初回は友人同士での来店が主流であることがうかがえる。

【昨年との比較考察 (Q15)】

- 昨年度も「料金」「初心者対応」といった要素は重視されていたが、今年度は特に「友達と一緒にいける」が最上位に位置している点が特徴的である。
- これは、授業内で
 - チーム戦
 - ペアでの成功体験

を多く取り入れたことにより、「仲間と楽しむスポーツ」という認識が強まった結果と考えられる。

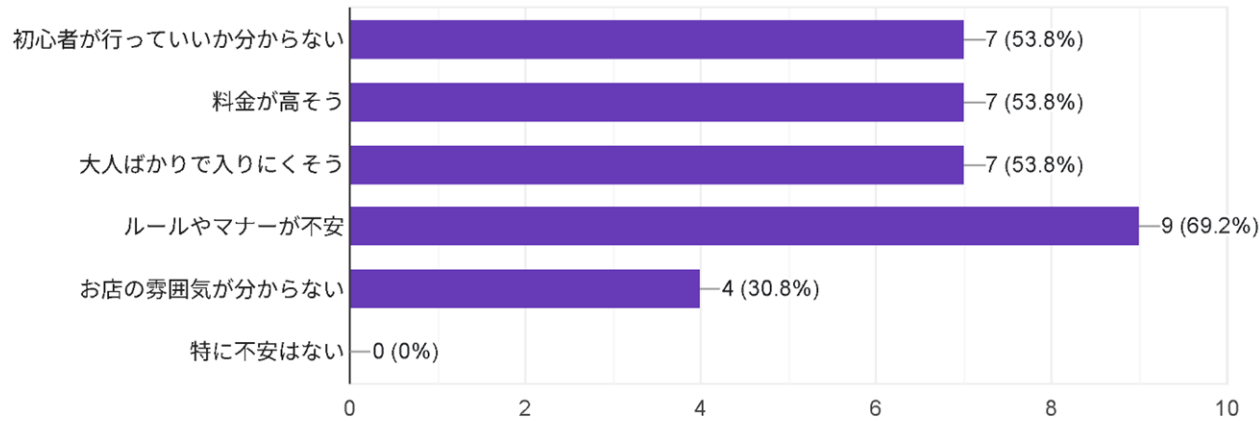
今後の普及・導線設計への示唆

- 学校授業から実際の来店につなげるには、
 - 初心者向け体験プラン
 - グループ利用しやすい料金設定
 - 高校生歓迎の分かりやすい表示が効果的と考えられる。
- また、友人同士での来店を前提とした「初回ペア体験」「グループ体験」といった導線設計が、来店促進につながる可能性が高い。

生徒が求めている行きやすさの条件は明確であり、初心者対応・料金の分かりやすさ・友人同士での利用環境を整えることが、学校授業から実店舗への来店につなげる鍵となる。

16. ビリヤード場に行くのが不安・気になる点があれば教えてください（複数選択OK）

13件の回答



不安の中心は「人・ルール・見えない情報」

- 最も多かったのは「ルールやマナーが不安」で約7割に達しており、技術以前に“分からないことをしてしまう不安”が大きいことが分かる。
- 「初心者が行っていいかわからない」「大人ばかりで入りくそう」といった回答も多く、自分がある場において良いのかという心理的ハードルが存在している。
- 「特に不安はない」が0%であることから、初来店にあたっては誰もが何らかの不安を抱えている状態といえる。

【Q15 との対比による考察】

- Q15 では
 - 初心者向けに教えてくれる人がいる
 - 料金が分かりやすい
 - 高校生でも利用しやすい
- といった条件が「行きやすさ」として挙げられていた。

- 一方 Q16 では、
 - ルールやマナーが分からない
 - 初心者として歓迎されるか不安
 - 料金や雰囲気不透明

という“情報不足による不安”が浮き彫りになっている。

⇒ つまり、「行きたい気持ち」はあるが、「分からないこと」が行動を妨げている状態であると整理できる。

【昨年との比較考察（Q16）】

- 昨年度も「初心者としての不安」は一定数見られたが、今年度は特にルール・マナーに対する不安が最も高い割合を占めている点が特徴的である。
- 授業を通じてビリヤードへの興味や理解が深まったからこそ、「きちんとした場所で、きちんとプレーしたい」という意識が生まれ、不安が具体化した可能性がある。

今後の普及・来店導線設計への示唆

- 初来店の不安を軽減するためには、
 - 初心者歓迎であることの明示
 - ルール・マナーを簡単に説明した資料や掲示
 - 高校生利用の可否や料金体系の明確化が非常に有効と考えられる。
- 特に、「初心者向け」「初めてでも大丈夫」というメッセージを可視化することで、Q15 で示された行きやすさの条件と合致し、行動への一歩を後押しできる可能性が高い。

生徒はビリヤード場に対して高い関心を示す一方で、ルールや雰囲気といった不透明な要素に不安を抱いており、これらを解消する情報提供と受け入れ体制の明確化が、実際の来店につなげる鍵となる。